

ロタウイルスワクチン「ロタリックス」が始まります。

ロタウイルス胃腸炎は、毎年1月から5月の冬から春にかけて流行します。今までにロタウイルスによる急性胃腸炎にかかったお子さんも少なくないと思います。「米のとぎ汁に似た白色下痢便」が特徴です。

潜伏期間は約2日、発熱や突然の嘔吐から始まり、その後頻回の水様性下痢になります。母親からもらった抗体や母乳からの免疫効果が切れる生後3か月以降が一番重症になりやすいです。脱水のため外来で点滴を受けたり、入院などすると親の肉体的、経済的負担は少なくありません。重症例のほとんどが3歳未満です。

全世界では年間約50万人の5歳未満の乳幼児が、ロタウイルス胃腸炎で死亡しています。その85%がアフリカ・アジアの発展途上国です。日本においては毎年120万人が発症し、そのうち80万人が外来を受診し、約8万人が脱水のため入院していると推定されています。死亡例は少なく10~20人程度です。

ロタウイルス胃腸炎の治療は、水分補給や整腸剤、点滴など対症療法しかありません。予防策としてもよく手を洗う事しかありません。一番有効な予防方法としては、**前もって免疫をつけておく予防接種を受けること**でしょう。

そのロタウイルス感染症に対するロタウイルスワクチン「ロタリックス」が11月21日から発売開始されます。これは経口弱毒生ワクチンで液体の「飲むワクチン」です。ポリオ生ワクチンと同じ接種方法です。欧米ではこのワクチンによって重症ロタウイルス胃腸炎が約9割減少していますので、かなりの予防効果が期待できそうです。

米国では2008年に「ロタリックス」(1

価)が認可され、定期予防接種に加わりました。(日本では2011年7月認可)これは生後6週から24週(生後5か月半)までの間に、4週間以上あけて2回接種します。従って生後20週を超えてからは、1回目のワクチン接種はできません。一般的には生後2~3か月からのヒブ・肺炎球菌ワクチン・DPTと同時接種が理想的でしょう。

副作用はほとんど問題になるような報告はありませんが、**規定の接種期間を超えると腸重積(腸閉塞)の発症の懸念**があるようです。

米国では「ロタリックス」よりも2年前(2006年)に、「ロタテック」(5価)が認可され、2007年には定期予防接種に加わりました。日本では今年(2011年)10月に認可され、来年には発売になると思われます。米国での報告によるとロタウイルス胃腸炎の74%を防ぎ、重症例については98%を防ぎました。入院も96%が減ったということです。「ロタテック」は生後2か月・4か月・6か月の3回服用です。(生後8か月までに終了)

今回発売される「ロタリックス」は、1回一万数千円の価格です。高くて躊躇される親御さんも少なくないと思われますが、お子さんの嘔吐・下痢で仕事を休まなくてはならない事を考えると、**金額以上のメリットはある**と思われます。

あなたならどうします? (たまなは)

